



# 桃山学園だより

## 新園長あいさつ

園長 岩本 俊也



このたび、桃山学園の園長としてお世話になります。岩本俊也です。よろしくお願ひいたします。

振り返りますと、桃山学園には昭和61年度から平成9年度までの12年間、当時の養護第一課（現・児童支援課）で、児童指導員として勤務していました。当時は、児童数も60名ほどであり、4人1部屋で畳の間という今とは全く違う生活スタイルでしたが、とても賑やかな毎日でした。私は入職当初は変則勤務での生活指導が中心でしたが、後半は主に措置延長児（当時の桃山養護学校高等部卒業生）への日中作業指導と進路担当に当たり、特に進路担当では、府内に限らず大阪、滋賀、福井等の成人施設へ子どもたちの進路保障に奔走していたことが思い出されます。

当時の養護第一課では、措置延長児のことを「年長さん」と言っており、毎日学齢児が登校と同時刻から年長作業が始まります。主に成人施設入所希望がほとんどで、多いときには15名から20名近くの年長さんが2～3グループに分かれて作業していました。桃山御陵内での歩行訓練から朝が始まり、帰園して園内作業として、農作業、椎茸栽培、玉のれんづくり、陶芸、和紙の染紙作業、洗濯ばさみの組み立て、園庭や園周辺の環境整備等々、子どもたちの障害状況に合わせて日中作業に取り組み、随所に“仕事”を意識した生活を心がけて支援してきました。また、作業で作った製品等を学園祭や地域の方に販売し、そこで得た収入で、社会見学や1泊2日の旅行に出かけたりと、様々な社会経験を子どもたちとともにしたことが思い出されます。また、学園全体の療育活動として、夏休み3泊4日琵琶湖1周サイクリングに取り組んだり、保護者の方々と園庭での親子キャンプや宇治川マラソン大会参加等職員も子どももとても活動的でした。

このような活動的であった桃山学園の過去をなつかしむ一方で、自分の原点でもある学園に戻ってきた今、昨年度のあってはならない虐待事案を真摯に受け止める中で、組織としてもう一度施設の原点を見つめ直し、何よりも子どもたちが個性を輝かせながら安心して過ごせる施設づくりに全職員一丸となって、取り組んでいきたいと考えています。

透明性のある開かれた組織運営、施設利用者や御家族の声を生かせる施設運営を第一としながら、地域からも信頼される開かれた施設として、改善・充実を図ってまいりますので、なにとぞよろしくお願ひいたします。

